



Walk with Children

めぐろ



せいび

218 号
2025 年 12 月

サレジオ国際学園目黒星美小学校

わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。

いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。

(ルカによる福音 1 章 46 節、2 章 14 節)

校長 シスター 小島 理恵

一年の締めくくり、12 月を迎えました。今年は、いつまでも暑さが残り、「秋はどこへ行ってしまったのだろう」と思うほどの日々が続きました。しかし、11 月中旬には、校庭の桜の木も風に揺られて次々と赤や黄色の葉を落とし、急ぎ足で秋を見送った感があります。

前期の終業式と後期の始業式では、「木」について子ども達に話しました。風に揺られ、葉が何枚も落ちてしまった木がつぶやきます。「せっかく頑張って育てたのに…どうして風なんて吹くんだろう。」風は言いました。「…でもね、強い風に揺られると、根っこはもっと強くなるんだよ。」そして、落ちた葉っぱは、アリやミミズのご飯になる…。こんなお話をしました。日常生活の中で、子ども達は時々“強い風”に見舞われることがあります。しかし、その時こそ、乗り越えた先にはもっと強い自分があること、そして、神様は乗り越える力を必ずくださることを忘れないでほしいと思います。

後期前半も残すところ 3 週間となりました。ジングルベルの曲があちらこちらで聞こえてきます。「平和の君」である幼子イエス様の誕生を祝うクリスマスを通して、子ども達一人一人の心にイエス様の平和と愛が豊かに注がれますように！

本年も大変お世話になりました。どうぞ、良いクリスマスと新年をお迎えください。

無原罪の聖母の祝日 ・ クリスマスの集い

宗教部 部長

12 月は、大切な行事、無原罪の聖母の祝日とクリスマスの集いを迎えます。

原罪、罪がない清い心のマリア様に倣って、私達も清く温かい心になれるように愛の行いを徳の花として行っています。9 日のサレジオ教会でのミサでは、主イエス様の母として聖母をお選びくださった神様に感謝してミサにあずかりたいと思います。

そして、クリスマスの集い。クリスマスは、神の子イエス・キリストの誕生を祝う日です。3 年生が分かりやすく劇の形で表現します。ローマ帝国の支配によって苦しんでいたイスラエルの人々、飼い葉おけの中でお生まれになったイエス様の誕生を祝う博士たち、ハンドベルやリコーダーの演奏、一生懸命練習を重ねている 3 年生から、クリスマスの意味を知り、共にお祝いしていきたいと思います。そして、イエス様が望んでいらっしゃる世界の平和を全校で祈っていきます。

芸術鑑賞会

芸術の秋。6年生は、劇団四季の「アラジン」を観劇しました。11月7日に実施した全校の芸術鑑賞会では、落語家の春風亭柳枝師匠と、動物の物まねの江戸屋猫八師匠が来校し、楽しい落語や動物の物まねを披露してくださいました。扇子や手ぬぐいの使い方や動物の鳴きまねのコツなども伝授していただき、想像を膨らませながら、聴くことの面白さも学んだひと時でした。

その時を大切に

6年

ぼく達6年生は劇団四季の「アラジン」を観劇しました。ジャスミン役の方が目黒星美小学校の先輩と聞いていたのでとても楽しみでした。

「アラジン」では様々なダンスや掛け合いを大人数でやっていたので、大変難しいだろうと感じました。また、はっきりと台詞や歌を届かせている姿を見て、1つの作品を完成させるのにはたくさんの努力をし、練習を積み重ねてきているのだなと思いました。目黒星美小学校の先輩の演技や歌声も素晴らしかったです。

そして、劇団の方々は観に来られる人のために1回1回の公演を大切にしてくれていることが伝わってきました。細かい1つ1つの台詞にも意味があることも分かりました。僕も目黒星美小学校の先輩のように、自分の気持ちや思いを周りの人に豊かに表現できるようになるとともに、その時その時を大切に過ごしていきたいと思いました。



すごかったらくご

2年

金曜日に学校でらく語をききました。どうぶつの鳴きまねも聞きました。どうぶつの鳴きまねは、体いくかんに本当にどうぶつがいるみたいに思いました。わたしの知らないどうぶつの鳴きまねもしてくれました。たくさんれんしゅうをつみかさねたんだろうなと思いながら見ていました。わたしは、「らく語は一人でもできるんだ。」と思いました。とてもおもしろかったので、たくさんらく語を聞きたいと思いました。らく語を見られて、本当にうれしかったです。

とても楽しかった芸術鑑賞会

5年

ぼく達は、11月7日に九代目春風亭柳枝さんと五代目江戸家猫八師匠さんの落語やものまねを鑑賞して二つの大切なことを学びました。

一つ目は、「想像力」をもつことです。なぜなら、落語では想像力をもって見ないと面白くないからです。柳枝さんは、刀の刃はどのくらいあるのかななどを目線で表現することで想像させ、面白く見せてくれました。

二つ目は、「観察力」を極めることです。なぜなら、猫八師匠は動物園で動物をよく観察したことで、とっても上手に鳴き声をまねていたからです。犬やねこだけでなく、鳥などの物まねもできて本当にすごいなと思いました。ぼくは、学んだ2つのことを生かして、これからの生活を豊かに過ごしていきたいと思いました。

P. A. M. の活動

P.A.M.は、「Piccolo Apostoli di Maria」すなわち「聖母マリアの小さな使徒会」という意味のイタリア語からきており、自分のできる小さな奉仕の活動を一生懸命行ったり、他の人の喜びのために働いたりすることを目的としている子ども達の課外活動です。子ども達は1年間を通じて、様々な行事やボランティア活動を行い、一人ひとりの小さな思いやりの行動がたくさんの人たちを幸せにすることに喜びを感じています。

石に上にも三年

6年

ぼくは、3年間 P.A.M.を続け、大変なこともあったけれど、やりがいもあったと感じています。この3年間で、聖母祭や教皇様の集い、赤い羽根共同募金のボランティア、老人ホーム訪問、慰霊の日の集いなどの活動を行ってきました。中でも心に残っている活動は、老人ホーム訪問です。ぼくは手遊びの係となり、あやとりで使うひもを率先して集めたり、歌の企画を考えたりしました。ぼくたちが訪問したことをホームの方たちがとても喜んでくださり、皆さんが喜んでくれてとてもよかったと安心しました。これらの活動を通して、他学年の仲間と毎週委員会のように活動する楽しさや、企画を立てる際の責任感、苦しさの中にも誰かの役に立っているというやりがいなどを感じることができました。これからも神様からいただいたお恵みを使い、どんなことにも一生懸命取り組むことのできる人になりたいです。

